

# 建築コスト 游学 19

## 史料に見る古代・中世の 建設関係の価格情報

今日、建設関係の価格に関しては数多くの情報があるといえる。価格は取引のシグナルであり、経済関係を伴う主体間では日常的に交わされる情報だからである。しかし株式のようにオープンな市場で取引される財はほとんどなく、相対(あいたい)での取引が大半であろう。だから価格の形成は通常、個別・分散的で、公正であることの保証はなく、ときに第三者からは分かりにくいと思われている。その隙間を埋めるのが刊行物による価格情報といえるだろう。このようないわゆる「物価版」を発行する建設分野の価格調査機関は日本では2社の調査会が存在し、各々が数万点に及ぶ価格情報を広く定期的に提供している。

調査会史については別稿を用意してみたいが、精々太平洋戦争前後からの歴史しかない。それ以前はいったいどうなっていたのか——。この方面は史学と経済学の間領域に経済史という学問分野があって、物価史を専門にする研究者がいる。以前に、その知見を借り、本欄のNo.4で大工賃金の近世以降の推移を取り上げたことがあった。

\* \* \*

千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館は「歴博」の名で親しまれ、日本の歴史と文化について総合的に研究・展示する機関である。同館の「データベースれきはく」では、様々な内容の研究資料を一般公開している。その中に「古代・中世都市生活史(物価)」というデータベースがあり、我々が関心を抱く情報が提供されている。今回はこの史料の紹介である。

このデータベースは、「日本の古代・中世における都市生活、具体的にはどのような消費が行われたかを検討するために、おおむね8世紀から16

世紀の価格関係の史料を抽出したもの」であり、37,000点あまりの情報が、2004年7月から同館のウェブページで公開されている。

その内容は大分類品目では、食料、繊維、衣料、日用品、用具、原材料、建設、不動産、人件費、祭祀料、経費、その他の12となっている。うち建設関係の物価情報が含まれると考えられるものの情報点数を表1に整理した。数百年分の情報量は精々1万数千点だから、現代の両調査会には到底及ばないが、興味深く貴重なものとする。物価情報の出典は表2の歴史文献からである。

また、表1の大分類の4つに関して、どの時点の情報が提供されているのか、小分類毎にダウン

表1 データベースの主な内容(建設関係のみ抽出)

品目分類	適用例・備考	公開データ数	
大分類	小分類		
建設	造営	建築・土木費用。	1,256
	修造	建造物の修理・修造。	213
	釘	鋸を含む。	694
	屋根材	瓦・檜皮など。	161
	畳		157
	土砂		49
	石造物		34
	建築部材	障子・戸・御簾・建築金具など。	285
	原木	材竹も含む。	1,267
	部材	半加工品で、他の部品・部材になる物。金具や軸など。	251
人件費	建築	大工・番匠など。材料費を含む場合もある。	336
	賃	建築関係以外の工賃。	878
	運輸		908
不動産	雑役	雇夫・人夫、掃除・煤払い、および分類不能の作料など。	1,913
	田地	畑耕作地。園を含む。	2,547
	地	建物付きのものや、寺院等の敷地も含む。	336
	庄地	荘園・郷・名・保・垣内・私領など。	43
建	物既に存在する建築物の売買・賃貸。	78	

(注) データベースの全体像は12大分類・84小分類であり、本表の整理はその一部。歴史民俗博物館ホームページより作成。  
<http://www.rekihaku.ac.jp/doc/gaiyou/hinmoku.html>

表2 物価情報の出典史料一覧 (アンダーラインは文献名)

日本書紀、続日本紀、日本後紀、続日本後紀、日本文徳天皇実録、日本三代実録、類聚国史、日本紀略、扶桑略記、本朝世紀、弘仁式、延喜式、交替式、類聚三代格、政事要略、朝野群載、別聚符宣抄、法曹類林・・・新訂増補国史大系／西宮記・・・神道大系／皇太神宮儀式帳、神宮雜例集・・・群書類従／慈覚大師伝・・・続群書類従／東大寺勅封蔵開検目録記・・・続々群書類従／東大寺要録・・・筒井俊英編、国書刊行会／造興福寺記・・・大日本仏教全書興福寺叢書／出雲国造家文書・・・村田正志編、清文堂出版／安芸国徴古雜抄(厳島文書)・・・広島県史古代中世史料Ⅴ／兵範記、中右記・・・増補史料大成／小右記・・・大日本古記録／今昔物語・・・新日本古典文学大系／宇治拾遺物語・・・且本古典文学大系／玉葉・・・国書刊行会／醍醐雜事記・・・中島俊司編、醍醐寺／正倉院文書、東南院文書、東寺文書(わ函)・・・大日本古文書／平安遺文、鎌倉遺文・・・竹内理三編、東京堂出版／教王護国寺文書・・・赤松俊秀編、平楽寺書店／大乘院寺社雜事記・・・辻善之助編、増補続史料大成／東国関係史料(金沢文庫古文書など)・・・『神奈川県史』資料編古代・中世／大和田重清日記・・・『日本史研究』44～52

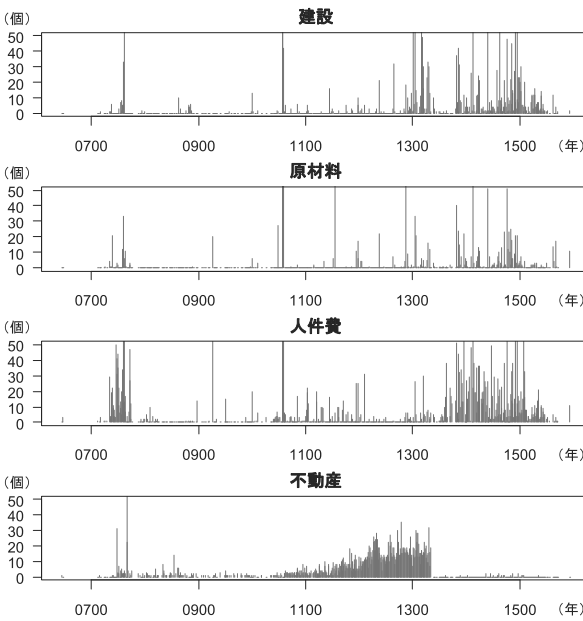


図1 建設分野の物価情報提供数の集計(西暦年別)

(注) 国立歴史民俗博物館「古代・中世都市生活史(物価)データベース」(<http://www.rekihaku.ac.jp/doc/t-db-index.html>)より、表1に整理した小分類別に「一括ダウンロード」したデータの数を大分類別に年単位で集計した。なお比較のため、縦軸は50個で固定しており、それを超える年もあるので留意。

ロードした情報を整理して、時系列のヒストグラムで数えてみた(図1)。平安初期の情報がまばらであることに気がつくが、中世以降は次第に情報量も増えていく。なお、近世以後の物価情報を

発掘した史料として、京都大学近世物価史研究会・編集『15～17世紀における物価変動の研究』(1962年)が有名らしい。これを補う意味で、14世紀以前の史料と東国の史料を比較的多く取り上げたのが、このデータベースとのことである。

\* \* \*

このデータベースの製作代表者によると、「物価の推移などを一覧できることと、物価データを記載した主要な史料を検索できることに主眼」を置いた設計がされている。

歴博ウェブページ上のデータベース検索画面で一覧表示された情報が一括ダウンロードできる。その内容は、【データコード】【年月日】【年月日コード】【品名】【数量】【数量単位】【貨幣種類】【価格】【価格単位】【単価】【備考】の11種類である。更に、検索後に番号をクリックすると、詳細結果で【地域】【購入者】【売却者】【史料】等の情報も別に拾える仕組みになっている(図2)。

**古代・中世都市生活史(物価)データベース  
の検索結果(詳細)**

前へ 次へ 一覧へ戻る

【データコード】	032194
【日付種類】	0
【年月日】	嘉元2(1304)年7月
【品目】	建設(屋根材)
【品名(史料)】	-
【品名・数量】	瓦 1500枚(1500枚)
【貨幣(史料)】	-
【貨幣・価格】	銭 5貫文(5000文)
【単価】	銭 (3333文/枚)
【地域】	-
【購入者】	-
【売却者】	-
【同一史料データ】	あり
【史料】	東大寺大垣修理所注進状/狩野亨吉蒐集文書 18/鎌倉遺文28-21928
【備考】	-

前へ 次へ 一覧へ戻る

れきはくホームページ データベース選択へ 検索へ戻る ヘルプを表示  
シへ 戻る る 示

National Museum of Japanese History. All rights reserved.  
<http://www.rekihaku.ac.jp>

歴博  
REKIHAKU

図2 「屋根材」検索で、ある詳細結果を見た画面(例)

\* \* \*

表1の小分類により筆者が検索をかけてダウンロードした一覧データに、大小の分類コードを付け加えて分析してみた。合計12,184個の情報

だが、複数の分類に登録されている情報があり、データコードをもとに調べると、最大で4つの小分類に区分されていた情報が2個あった（なお、3つが33個、2つが944個あった）。分析者に最大限の情報提供を行おうとする製作者の意図がみえ

る。

さて、この整理データにより、「数量単位」「価格単位」を表3、表4にて集計した。詳細は個々の史料に当たるのが望ましいが、大凡、建設分野の取引の数量や価格の単位名をつかめる。表3

表3 「数量単位」の呼称の集計（建設関連分野）

数量単位の呼称	建設								原材料		人件費				不動産				合計
	屋根材	建築部材	修造	畳	石造物	造営	釘	土砂	部品	木材	運輸	建築	工賃	雑役	家地	建物	庄地	田畑	
段	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	107	-	16	2,335	2,462
人	13	-	9	2	7	441	-	-	-	1	153	562	170	905	-	-	-	-	2,263
枚	81	34	-	3	-	5	-	-	85	152	7	7	36	-	-	-	-	-	410
支	-	1	-	-	-	-	-	-	-	392	8	-	-	-	-	-	-	-	401
張	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	326	-	-	-	-	-	326
間	-	44	1	2	-	24	-	-	5	22	-	-	1	-	74	24	-	1	198
宇	-	-	-	-	-	170	-	-	-	-	-	1	1	-	-	17	-	-	189
升	-	-	-	-	-	-	10	8	-	2	155	-	-	10	-	-	-	-	185
連	-	2	-	-	-	-	161	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	164
本	-	3	-	-	-	6	2	-	1	138	1	-	2	-	-	-	-	-	153
日	-	-	2	-	-	25	-	-	-	2	1	40	21	61	-	-	-	-	152
領	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	116	-	-	-	-	-	-	-	116
所	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	21	1	10	50	97
尺	-	-	-	4	1	5	-	-	7	56	6	3	1	-	7	-	-	-	90
隻	-	1	-	-	-	-	-	-	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75
帖	-	9	-	61	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	73
匹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	60
枝	-	-	-	-	-	-	-	-	6	30	20	-	-	-	-	-	-	-	56
両	-	-	-	-	-	-	3	16	1	-	34	-	1	-	-	-	-	-	55
荷	-	-	-	-	-	-	-	-	1	39	1	-	3	-	-	-	-	-	44
束	-	1	-	-	-	-	-	-	4	28	4	-	-	7	-	-	-	-	44
戸主	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	-	-	2	41
処	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	6	21	38
丁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36	-	-	-	1	-	-	-	-	37
口	-	10	-	-	-	-	1	-	9	1	1	-	8	2	-	-	-	-	32
体	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	27	-	-	-	-	-	30
囲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
村	24	-	-	-	-	-	-	-	-	11	10	-	-	-	-	-	-	-	21
寸	-	2	-	-	-	-	1	-	-	16	1	-	-	-	-	-	-	-	20
基	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	18
その他	14	15	1	4	2	19	46	3	42	79	37	30	42	29	11	3	2	15	394
合計	132	123	13	76	10	728	295	27	165	1,006	618	644	641	1,017	270	45	34	2,424	8,268

(注) 単位のカウンタ数合計(右欄)上位順。なお、このカウンタ数には表頭分類間で重複がある。国立歴史民俗博物館「古代・中世都市生活史(物価)データベース」に基づく。表4も同じ。

表4 「価格単位」の呼称の集計（建設関連分野）

価格単位の呼称	建設								原材料		人件費				不動産				合計	
	屋根材	建築部材	修造	畳	石造物	造営	釘	土砂	部品	木材	運輸	建築	工賃	雑役	家地	建物	庄地	田畑		
文	101	237	190	148	32	605	606	41	132	883	444	702	471	1,530	156	50	27	997	7,352	
升	54	3	4	5	-	500	56	3	3	299	288	323	79	297	102	17	6	1,044	3,083	
束	-	7	10	-	-	18	-	2	-	28	155	11	12	46	19	10	-	153	471	
尺	1	7	-	-	-	2	-	-	16	-	3	2	270	2	-	-	-	5	308	
疋	1	18	1	-	1	22	1	1	75	41	13	14	8	6	8	-	1	79	290	
斗(本斗)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	30	43	
段	-	1	-	-	-	5	-	-	4	-	1	5	2	-	1	-	2	26	26	
端	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	7	1	1	-	-	-	11	11
匹	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3	-	2	-	-	1	11	11
反	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	4	1	2	-	-	-	-	11	11
その他	-	7	7	2	-	4	-	-	4	1	4	5	10	18	8	-	-	43	113	
合計	157	280	212	155	33	1,161	663	47	239	1,252	908	1,067	866	1,904	309	78	34	2,354	11,719	

によると、資材関係では、屋根材は「枚」、畳は「帖」、釘は「連」、また、人件費では当然ながら「人」がポピュラーな取引単位の数量名称であった。

また、表4の価格単位の集計では「文」「升」が圧倒的に多い。「文（もん）」は、漢字文化圏で使用される銭貨の通貨単位である。日本には、銭の輸入と共に室町時代頃から用いられ、明治維新の新通貨単位・円の導入まで続いた。また、「升（しょう）」とは、尺貫法における体積（容積）の基準となる単位で、メートル法採用後の明治24（1891）年に、1升=1.8039ℓと定められた。10合（ごう）が1升、10升が1斗（と）となる。価格単位で「升」が使われるのは、室町以前は米が代金の代わりであったからである。

\* \* \*

様々ある価格情報の中から、図2でも例示した屋根材を具体的に見てみたい。主として檜皮葺きと瓦があるが、中世以降は瓦が多くなる。材料と

しての瓦の値段が判明する情報は100余り得られた。その抜粋を表5に示す。

同じ日付の情報が多いのは文献に載った情報だからである。現代の棧瓦は江戸時代初期の発明品だから、この表にあるのは伝統的寺院などで使われる平瓦と丸瓦が中心となっている。鬼瓦は単価が高い。瓦の形式や取引枚数によって単価は微妙に異なるさまも分かる。先述のように、平安時代が米で、鎌倉時代以降が銭になっているのも確認できる。このような単価の違いや水準の変化をどう捉えるべきか。現在の棧瓦1枚100～200円程度の水準と比べて、古代・中世の瓦は高いのか安いのか。いろいろな疑問がわいてくるが、時代背景等の深い理解に基づく検討を要する。

（主席研究員 岩松 準）

（参考文献）

- 1) 国立歴史民俗博物館・研究報告113集『古代・中世における流通・消費とその場』2004.3
- 2) 岩松準「伝統建材」月刊建設物価（建設物価調査会）建設時評、pp.8-9（記事欄）、2013.3

表5 材料としての瓦1枚あたりの単価（抜粋）（年月日順）

品名・数量	貨幣・価格	単価	年月日	地域	データコード
焼瓦料 1,200枚 (1,200枚)	米 20石 (2,000升)	1.7升/枚	永承2 (1047) 年2月17日	-	32256
瓦 380枚 (380枚)	米 19石 (1,900升)	5.0	天喜4 (1056) 年12月30日	-	32208
瓦 430枚 (430枚)	米 21石5斗 (2,150升)	5.0	天喜4 (1056) 年12月30日	-	32212
瓦 380枚 (380枚)	米 38石 (3,800升)	10.0	天喜4 (1056) 年12月30日	-	32213
瓦 200枚 (200枚)	米 200斗 (2,000升)	10.0	天喜5 (1057) 年12月28日	-	32234
丸瓦 350枚 (350枚)	米 17石5斗 (1,750升)	5.0	天喜5 (1057) 年12月28日	-	32241
瓦 5,150枚 (5,150枚)	米 65石 (6,500升)	1.3	康平元 (1058) 年?	-	32223
瓦 500枚 (500枚)	米 6石 (600升)	1.2	康平元 (1058) 年?	-	32224
瓦 550枚 (550枚)	米 6石3斗 (630升)	1.1	康平元 (1058) 年?	-	32226
瓦 4,100枚 (4,100枚)	米 52石 (5,200升)	1.3	康平元 (1058) 年10月27日	-	32217
瓦 62,456枚 (62,456枚)	米 1,919石6斗8升 (191,968升)	3.1	応徳2 (1085) 年1月	-	32232
丸瓦 17,132枚 (17,132枚)	米 513石9斗 (51,390升)	3.0	応徳2 (1085) 年1月	-	32247
鬼瓦 16枚 (16枚)	米 8石 (800升)	50.0	応徳2 (1085) 年1月	-	32252
鐘瓦 962枚 (962枚)	米 48石1斗 (4,810升)	5.0	応徳2 (1085) 年1月	-	32263
平瓦 43,384枚 (43,384枚)	米 1,301石5斗 (130,150升)	3.0	応徳2 (1085) 年1月	-	32292
檐瓦 962枚 (962枚)	米 48石1斗 (4,810升)	5.0	応徳2 (1085) 年1月	-	32317
瓦 1万1,000枚 (11,000枚)	銭 44貫文 (44,000文)	4.0文/枚	弘安10 (1287) 年1月?	-	32201
瓦 1,500枚 (1,500枚)	銭 5貫文 (5,000文)	3.3	嘉元2 (1304) 年7月	-	32194
瓦 800枚 (800枚)	銭 2貫700文 (2,700文)	3.4	嘉元2 (1304) 年7月	-	32195
瓦 500枚 (500枚)	銭 1貫600文 (1,600文)	3.2	嘉元2 (1304) 年7月	-	32196
丸瓦 160枚 (160枚)	銭 1貫600文 (1,600文)	10.0	嘉暦2 (1327) 年7月1日	武蔵国金沢	32240
鬼瓦 2枚 (2枚)	銭 600文 (600文)	300.0	嘉暦2 (1327) 年7月1日	武蔵国金沢	32251
軒瓦 240枚 (240枚)	銭 2貫400文 (2,400文)	10.0	嘉暦2 (1327) 年7月1日	武蔵国金沢	32255
鐘瓦 250枚 (250枚)	銭 2貫500文 (2,500文)	10.0	嘉暦2 (1327) 年7月1日	武蔵国金沢	32262
平瓦 1,000枚 (1,000枚)	銭 10貫文 (10,000文)	10.0	嘉暦2 (1327) 年7月1日	武蔵国金沢	32281
平瓦 100枚 (100枚)	銭 10貫 (10,000文)	100.0	嘉暦2 (1327) 年7月1日	武蔵国金沢	32284
丸瓦? 1,103枚 (1,103枚)	銭 [ ]貫 [ ]百五十六文 (2,056文)	1.9	至徳4 (1387) 年5月	山城国京都	32248
鐘瓦 60枚 (60枚)	銭 150文 (150文)	2.5	至徳4 (1387) 年5月	山城国京都	32260
平瓦 2,933枚 (2,933枚)	銭 7貫337 [ ] (7,337文)	2.5	至徳4 (1387) 年5月	山城国京都	32282
衾瓦 68枚 (68枚)	銭 400 [ ] (400文)	5.9	至徳4 (1387) 年5月	山城国京都	32318
工賃 (瓦作料) 二千枚 (2,000枚)	銭 11貫文 (11,000文)	5.5	明応4 (1495) 年7月	山城国京都	19161